

メディア・リテラシーによる性的メディアの影響の軽減について

高橋雄司

性的メディアが青少年の健全育成を阻むと規制を強化しようとする議論がある一方で、その影響に抵抗できるようにメディア・リテラシーを養おうという議論もある。本研究では、メディア世界で描かれている事を現実のものとして受け入れてしまうという Gerbner の唱えたカルチベーション効果を援用し、青少年の性意識への影響の軽減にメディア・リテラシーが有効であるかを検証していく。ここでの性的メディアとは、出版社や映像制作会社が自主的に定めたレーティングとは関係なく、単純に「裸やセックスの場面が多い」映像、画像、文章などのコンテンツのことを指す。また、パッケージとして販売されているものに限らず、インターネット上にアップロードされていたり、ウェブサイト上で公開されていたりするものも含めている。メディア・リテラシーは後藤康志の指標を参考に、主体性と批判的思考の2つの側面から測定した。

学生への質問紙調査を通して集められたデータをもとに、性的メディアへの接触程度や接触している性的メディアの種類によって青少年がより性に対して寛容な態度をとるようになっているかどうかを分析していった。そして、性的メディアに接触することで性に対して寛容な態度をとるようになるという結果を得た。また、接触している性的メディアの種類によっても性的メディアからの影響は異なっていた。これらは、Gerbner のカルチベーション効果を支持する結果である。

しかし、性的メディアからの影響に対して、メディア・リテラシーが有効に働いているという結果を得ることはできなかった。主体性や批判的思考の程度にかかわらず、青少年は性的メディアに接触することで性意識に影響を受けてしまっていることが明らかになった。

今回は青少年の性的メディア接触と性意識との一側面しか明らかにできていない。今後は青少年がどのような態度で性的メディアに接触しているかを考慮しながらの議論が必要だろう。

(指導教員 歳森敦)